

どろん子 世界 から スーダン

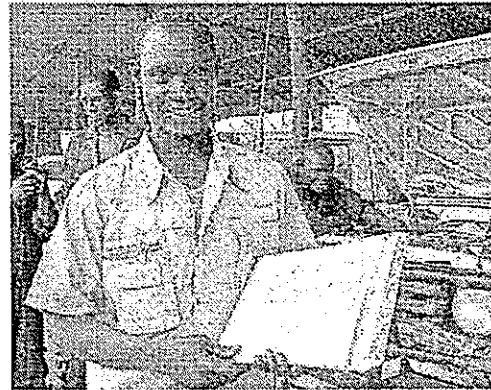
今井 高樹

「まだ仕事が見つからない」。私たちがスーダンで運営する職業訓練所の卒業生ルバジョさん(26)からの電話だ。4年

チャンスは自分の力で

前に内戦が終わり、ウガンタの難民キャンプから故郷スーダンに戻った。自動車整備の技術を身に付け、職を探している。「整備工場をいくつか回ったけど、経営者も整備士もケニア人。スーダンは雇ってくれない」

内戦後の復興景気は続いているが、恩恵にあずかっているのはケニアなど周辺国からの出稼ぎ外国人。主役のはずのスーダン人には相変わらず職がない。知り合いの外国人経営者は「スーダン人は働き



履歴書を手にも自動車整備工場を訪問するルバジョさん

が悪くてわがまま。あれじゃ誰だって雇いたくない」と言う。「そんなことはない」。ルバジョさんは反論する。「自分はまじめに職業訓練を受けた。ただチャンスがないんだ」。だが私には、いまひとつ就職意欲に欠けるようにも見える。

難民時代は援助を待つしかなかったのかもしれない。しかし今は違う。チャンスは自分でつかむしかない。私が何も手助けできないと分かり、彼は職探しを続けている。

◇

いまい・たがき 北大卒業後、会社員を経て2007年5月から、日本国際ボランティアセンター職員として、スーダン南部ジュバに駐在。46歳